



Veritas No.26(2004.7.23)

目次 (敬称略)

<猛暑を読書で吹っ飛ばせ!——夏休みを前にして——>

浜下 昌宏 (図書館長)

<特集 夏休みに読んでほしい、読みたいこの一冊> (ABC 順)

石川 康宏 (総合文化学科)

松田 高志 (総合文化学科)

中村 健 (音楽学科)

西田 昌司 (人間科学科)

武田 泰宏 (人間科学科)

<神戸女学院ゆかりの駒井家住宅 (京都) へどうぞ>

三村 浩史 (財団法人日本ナショナルトラスト専門委員)

<研究室から>

三上 勝也

<オルチン文庫にある「讚美歌集」について その九>

茂 洋

無断転載を禁ず

〈猛暑を読書で吹っ飛ばせ!——夏休みを前にして——〉

浜下 昌宏 図書館長 総合文化学科教授

ふと「♪もういくつ寝るとお正月・・・」という小学唱歌を思い出したりする。あるいは「♪春よ、来い、早く来い、歩き始めたミヨちゃんが・・・」といった唱歌を。(思えばこうした味わいある歌を歌って私などは情操教育をされてきたように思う。) なぜこんな歌を思い出すのかというと、実は「もういくつ寝ると<夏休み>・・・」という気分だからであり、「<夏休み>よ、来い、早く来い！」と祈るような気持ちでいるからだろう。「お正月」や「春」を心待ちにする唱歌には明るさといたいけなさがあるが、ここで私が「夏休み」を心待ちにする心境たるや哀れである。説明不要であろう。どなたも諸事に追い詰められて、夏休みこそがせめてもの若干の解放の時と信じているにちがいない。「待つこと」を哲学の主題としたのはシモーヌ・ヴェイユであった。ボイティンダイクには「待つことの現象学」という小論がある。救世主を待った時代もあった。しかし、われわれのように祈るような気持ちで頼りなげに日々を過ごすのも情けない。がむしゃらに本を読んで暑さと異常な多忙とを忘れようではないか。

私は2年生のクラスで毎週本を読むように指示する。今までに読んだものは、唯川恵『5年後、幸せになる』、柳美里『自殺』、太宰治『人間失格』、柳田国男『遠野物語』、リンドバーグ夫人『海からの贈り物』、フランソワーズ・サガン『悲しみよこんにちは』、トルーマン・カポーティ『ティファニーで朝食を』、そして『伊勢物語』である。最初の2冊(唯川恵と柳美里)は学生からの提案で読んだ。なるほど、今受けているのはこうした本かと、私には社会勉強になった。他の本は(前者にあきれた?) 私からの指定である。以前に読んだものをこの機会に読み返すことになり、太宰の徹底した共依存症的性格、『遠野物語』の山人をめぐる異常事件、リンドバーグ夫人の女性ストア哲学的な叡智、『悲しみよこんにちは』のフレンチ式恋愛の華やかさと悲劇、『ティファニーで朝食を』の女主人公ホリーのたくましいアメリカ女性的処世術、『伊勢物語』の愛情を歌で包む品位、などにあらためて感心した。そして東京への出張には、持ち歩く本は講義のための、プラトン『国家』上巻(岩波文庫)と Meredith, Kant's Critique of Judgement, Oxford, 1928(カント『判断力批判』の英訳)である。両者とも読み直しであるが、年を経て再読すると、以前には印象になかったものが見えてくる。『国家』の冒頭は老人になることの効用について書かれており、カント『判断力批判』は英訳で読むと、理性が人間の尊厳の根拠であるというカントの信念が伝わってくる。こうして新幹線の中で読書を続けながら、暑さと雑事を忘れ、読書の恍惚のうちにやがて眠りに落ちる・・・もしかすると、それは良書の効用ではなく、ただただ疲れと車内の冷房の心地よさが原因でうたた寝を始めたのかもしれない・・・。

<特集 夏休みに読んでほしい、読みたいこの一冊>

石川 康宏 総合文化学科教授

猿田正機『福祉国家・スウェーデンの労使関係』（ミネルヴァ書房，2003年）

同じ資本主義の国でありながら、「自由競争」重視のアメリカ型資本主義と「社会的連帯」重視のヨーロッパ型資本主義の大きな違いは、いったいどこから生まれてきたのか。とりわけ、スウェーデンに代表される北欧の「福祉国家」は、どのような力によって生み出されたのか。これは、前期の「比較経済論」の授業をつうじて考えてきたテーマのひとつです。

デンマークやオランダを見ても、「福祉国家」には日本よりはるかに「ゆとり」のある労働条件があり、日本とは比較にならない社会保障があり、また社会の「危機」に力をあわせる比較的安定した政労使の関係があります。そのような特徴をもつ社会をつくる力が、市民のなかに、とりわけ労働運動のなかにどのようにして形成されたのか。日本の今を考えると、それを良く知っておくことはとても大切なことだと思います。ここに紹介した本は、スウェーデンの労使関係の現状を分析しながら、日本の労働運動の課題を厳しく指摘するものです。みなさんも、どうぞ挑戦してみてください。

松田 高志 総合文化学科教授

龍村仁『地球（ガイア）のささやき』（創元社 1995年、又は角川ソフィア文庫）

著者の龍村仁氏は、ドキュメンタリー専門の映画監督で、目下「地球交響曲（ガイア・シンフォニー）」シリーズを作り続けている。これは、一般の映画館で上映されず、専らファンが自主上映する形で、全国に広がっている。実は、ゼミの卒業生に教えてもらって、第一番から四番まで見て来たが、今日（7月8日）大阪で第五番の完成披露試写会があり、たった今、見て来たばかりである。

混迷の度を増す時代にあって、「ガイア（地球）という生命体の一員として生かされ、全ての存在とつながっている」という安心感を取り戻したいとの願いから生まれ、実際制作過程そのものがいわゆるシンクロニシティ（共時性）に満ちた不思議な映画であるが、深い安心感から生きている魅力的な人物が次々登場し、心が萎えがちな我々を力づけ、希望をもたせてくれる。今回の第五番は、一層そういうことを感じさせられた。

映画と平行する形で、龍村監督のエッセイが刊行されている。本書は、その一番目のものだが、実に面白い。続刊の『ガイアシンフォニー間奏曲』（インファス）、『ガイアをつつむ風のように』（サンマーク出版）、『地球交響曲第三番 魂の旅』（角川書店）も是非読んでほしい。何とも言えず美しい映像と音楽の映画そのものをご覧いただきたいのは言うまでもない。

中村 健 音楽学科教授

「日本語横書きののルルに紆余曲折。」「日本の最初の左横書きの例は宇田川榕菴の、蘭、独、英語交じりの著作群。」などとある。『横書き登場』（岩波新書、屋名池誠著、¥740、2003年）、日本語左横書きのルーツは讚美歌の楽譜の歌詞にあるかも…と勝手に想像して読み始めたがそれはハズレ！ 単に雑学的興味で快調に読み飛ばすもよし。何はともあれ縦書きで書かれた楽しい本。

その榕菴を話題にした快著が『シーボルトと宇田川榕菴・江戸蘭学交遊記』（平凡社新書、高橋輝和著、¥740、2002年）、二人を通じてリベラルアーツの真髓を見、江戸末期の国際学術文化交流の輝かしい成果を知る。

「シーボルトが日本に持ち込んだピアノ、それは日本最初のピアノ」とよく紹介されるが、どうやらその前にオランダ商館長の夫に随行してきたティツィアなる女性が、出島にピアノを持ち込み弾いたらしい。それもベートーヴェンを。『ティツィア・日本へ旅した最初の西洋婦人』（シングルカット社、ルネ・ベルスマ著、¥1,800、2003年）を最近入手。結局将軍家斉はティツィアを追放する。ベートーヴェンの死ぬ10年前のことだ。当時の出版事情などを考えると彼女が弾いたピアノ曲は、作品90以前の変奏曲か小品らしいという。皆が読み終え、ウンチクをひととおり披露し終えるまで読んでではない。

次回には是非、図書館員の皆さんのお勧め図書を紹介してほしい。

西田 昌司 人間科学科教授

『二重らせん』 ジェームズ・ワトソン 講談社文庫 1986年

自然科学とは縁遠い学生諸君も DNA の「二重らせん」構造という言葉は聞いたことがあるに違いない。生命科学のセントラルドグマの根幹となる「二重らせん」構造が発見されてから、昨年でちょうど50周年を迎えた。

若き二人の科学者ワトソンとクリックが、どのようにライバルたちと競い合い、高め合いながら、20世紀の最も重要な発見の一つ「二重らせん」の発見に至ったかを記した、ワトソン自身の手になる本書は、自然科学における古典の一冊とされている。当事者ならではの手に汗握るドラマが展開されているのだが、50年を経た現在では、実は別の視点からの「二重らせん」物語も明らかとなりつつある。

その一。ワトソン達と競争して破れ、37歳で夭折した美貌の女性科学者、ロザリンド・フランクリン。本書での彼女の扱いが如何に不当で、なおかつワトソン達は彼女のデータを無断で使用して世紀の発見を成し遂げたのではないかとの見方が持ち上がっている(The double helix and the 'wronged heroine' Nature 421:407,2003)。

その二。21世紀の「二重らせん」、ヒトゲノムプロジェクト。ワトソンはそのリーダーでもあったが、プロジェクトの立ち上げに当たってアメリカの権益を守るために彼が日本に対して行った恫喝と脅迫が今語られている(『ヒトゲノム』榊佳之 岩波新書 2001年)。

34歳の若さでノーベル賞を獲ったワトソンはやはり一筋縄ではいかない。ワトソン以降、ノーベル賞は賞取りレースになったと評されるが、何はともあれ第一線、第一級の科学の世界の息吹を感じ取るには、今なお最もホットな一冊として、暑い夏に是非読んでほしい。ジェンダーの視点からも、また興味深い一冊である。

武田 泰宏 人間科学科教授

Rose, S. The Chemistry of Life, Penguin Books, 1999

過去に感銘を受けたもの、難解でよく分からなかったものなど自分がもう一度、読み返したい本はいくつかあるが、夏休みに他の人に読んでほしい本となると、目的と対象により異ってくる。従って、自分の担当教科に関係したもので、気楽に読める教養書の他は薦めない方が無難だと考え、下記の1点だけを挙げておくことにする。これは英国オープンユニバーシティ・基礎科学コースの生化学の教科書である。生化学は大変な勢いで発展してきたが、雑誌などに出てくる新知識を理解するのに必要な基本的な知識と統合的な考え方が平易に説明されていて、簡便に全体を把握できるところがよい。

<神戸女学院ゆかりの駒井家住宅（京都）へどうぞ>

三村 浩史

財団法人日本ナショナルトラスト専門委員 駒井家住宅保護管理委員長
京都大学名誉教授

米国人建築家ヴォーリズが設計した京都市左京区の京都市指定文化財「駒井家住宅」(1927年竣工)の修理がこのほど終わり、5月から公開されている。当家より寄贈をうけた私たち財団法人・日本ナショナルトラストが維持管理にあたり、文化財としての価値の顕彰につとめている。今回は皆様方、神戸女学院とはことのほかのゆかりを紹介したい。



☆★ ウィリアム・メレル・ヴォーリズ(1880-1964)は青年時代にキリスト教伝道のために来日し、その活動の一環としてメンソレタームで有名な近江兄弟社などの事業を興し、さらに初期モダンの建築家としても、当時の米国で流行だったスパニッシュミッション様式などをもちいて、軽妙で上品な数々の建築を設計した。関西では、大阪大丸百貨店、神戸女学院岡田山キャンパスなどとともに、新中間層のニーズにこたえるモデル住宅の設計でも才能を発揮している。「駒井家住宅」もその作品の一つである。

☆★ ヴォーリズに、私邸の設計を依頼したのは駒井卓・静江夫妻。駒井卓は当時の京都帝国大学理学部で遺伝学を立ち上げた生物学者で、のちに裕仁天皇の生物学研究のご進講役にもなった。夫人となった静江は、神戸女学院の出身(1909年普通科卒・1914年専門部卒)。夫の留学に随伴することで、米国の教会活動にかかわり、新しいライフスタイルを体験してきたようだ。

☆★ 昨年秋、私たちは孫の駒井俊雄氏らと岡田山キャンパス図書館本館を訪れた。さすが伝統ある大学だけに、神戸山本通キャンパス時代からのアーカイブがよく整理されて、私たちを待っていてくれた。青野(旧姓)静江は、在学中から英語と音楽に優れており、兵庫県英語弁論大会でも入賞する才女だったことがわかった。彼女の6年先輩に後にヴォーリズの妻となる一柳満喜子がいた。二人は帰国後、キリスト教矯風会京滋支部で満喜子

と活動を共にしていたから、このついででヴォーリズに設計を依頼することになったと推論できる。日本でも、大正時代から昭和のはじめは、新中間層の登場とともに家族本位の都会風住宅への試みがはじまった時期だった。

☆★ 出窓と造り付けのソファ、リビングからダイニングに続く広間、小窓のある曲がり階段、比叡山を望む庭など、品位よく快適にデザインされた駒井家住宅は、ヴォーリズの代表的な住宅作品であるとともに、現代ハウジングの先達だといえる。アーリーアメリカンの家具やドイツ製のピアノも興味をさそう。



☆★ 一般公開は、毎週金、土曜日の午前 10 時から午後 4 時（入場は午後 3 時まで）。修復協力金千円（日本ナショナルトラスト会員は無料）。ゼミ単位等の見学相談にも応じている。問い合わせは(財)日本ナショナルトラストまで。

財団法人日本ナショナルトラスト

tel/03-3214-2631 fax/03-3214-2633 E-mail/ info@national-trust.or.jp

もしくは関西支部/駒井家住宅（火・金・土曜日のみ）

tel/fax 075-724-3115

<研究室から>

三上 勝也 総合文化学科教授

30 余年フィールドの一つにしてきた奈良県添上郡月ヶ瀬村は、三重県と京都府に接した 僅か 6 集落からなる明治 22 年の町村制以来の村である。この村（当時は月瀬村）が今からおよそ 50 年前の昭和の大合併の時に大揺れに揺れた。まだ車時代が到来する以前の当時、東西に長く瓢型をした村は五月川（名張川）の溪谷を挟んで西地区に位置する 3 集落と三重県上野市に接する東地区の 3 集落が合併をめぐる鋭く対立したのである。

昭和 28 年に施行された市町村合併促進法を受けて月ヶ瀬村では「町村合併促進協議会」を設置、集落単位では住民の意向を問う集会在たびたび持たれた。その結果、東地区の 3 集落では、商品の購買・農産物の販売消費地として交通の便利な県外の上野市との合併案が、一方、西地区の 3 集落では、生業・人情・風俗が類似していて県の合併計画案にも沿っている県内の波多野・豊原・東山 3 村との合併案が出てきた。両派住民は互いに説得を試みたが歩み寄りは見られず、この問題を一任された村議会は 6 対 5 の僅少差で「県外合併」を議決した。合併問題をめぐっては議会で「分村決議」がなされたり、両派住民の間でも分村論争が展開されるなどその後も紛糾を続けたが、結局、三重県知事の県外合併申請に対して自治庁は、「越境合併」を不適当として昭和 33 年 10 月に不許可の通達を出した。以来、月ヶ瀬村はいずれの市町村とも合併せず 1 郡 1 村を通してきた。そして平成の大合併、月ヶ瀬村は早々と奈良市との合併を決めている。

一方、50 年前、月ヶ瀬村を含めた 4 村合併に向けて積極的に働きかけた波多野、豊原、東山村は 3 村だけで合併して山添村（もう一つのフィールド）となった。その山添村がこの度の市町村合併ではもめにもめた。50 年前と違って道路網が整備され、住民の生活圏は比較にならないほど拡大し、高齢者と少数の専業農家世帯を除く住民の多くが車で 30 分以内の西に接した奈良市や天理市、東に接する三重県上野市、名張市などに通勤している。奈良市か天理市か、県外の上野市か名張市か、それとも単独で生き残るか、一つの村でありながら住民の生活圏の違いから県境の村の合併論議は当初から簡単には纏まりそうになかった。

昨年 8 月、合併をめぐる住民投票が行われた。合併は特例法期限内の平成 17 年 3 月までを目指したため越境合併は難しく、事実上は奈良市との合併協議に参加するか単独で生き残るか、のいずれかが問われることとなった。合併推進派と慎重派はそれぞれに住民組織をつくり、集会を開くなど活発な活動を展開し、告示後は宣伝カーで舌戦を戦わせた。

投票率 86%余と村民の関心は高く、結果は「合併協議に参加しない」が 400 票余の差で勝ち、住民は単独で自立への道を選んだ。これに対して合併推進派はたとえ「分村してでも奈良市と合併を」と収まらなかったが、村議会は「住民投票の結果を村の方向づけ」とする議案を全会一致で可決した。しかし、今年に入って推進派住民が法定合併協議会の設置を求める署名を選挙管理委員会に提出したり、住民投票のやり直しを訴えるなど対立は解消しそうになく、対応に苦慮した村長は議会に辞表を提出した。合併問題は 5 月の村長選挙の場に移されて再び民意を問う事態に至ったが、合併慎重派の村長の当選でとりあえず幕を引くことになった。

国の「三位一体」議論の中で補助金はカットされ、村の収入の 5 割を占める地方交付税も削減される。過疎化・少子高齢化の進むこの小さな村が、投票で二分した住民のしこりを背負いながら自立への道をどのように模索していくか、長年この地域の調査に関わった者として今後を真摯に見守りたい。

<オルチン文庫にある「讃美歌集」について その九>

茂 洋 本学名誉教授

日本の讃美歌集の中でも、最高傑作と呼ばれている『新撰讃美歌』（62, 69）を見てください。今までの日本の讃美歌集の中で、ほとんど全部に挙げられていた讃美歌が二つあります。そのそれぞれの変遷を、簡単にたどってみます。

* * *

その一つは、” Nearer, my God, to Thee.” の訳です。これは、最初横浜でルーミスと奥野昌綱によって訳されたと考えられます。しかし現在のところ、最初に出版されたのは、神戸の摂津第一基督公会（現在の日本基督教団 神戸教会のこと）の讃美歌集「無題」（06）で、その第一番になっています。でも実際には、横浜の長老派の教会で訳されていたはずなのですが、今のところまだそれが見つかりません。

その後ほとんどすべての讃美歌集に取り上げられていますが、奥野昌綱によって、訳に手が加えられています。七五調の訳から、曲に合わせて訳しなおされていますし、曲は BETHANY ですが、『新撰讃美歌』（69）では、オルチンの手によって、日本人に歌いやすいように、音程が下げられています。

摂津第一基督公会の讃美歌集「無題」（06）の 01（ここには楽譜はありませんでした。）と、「讃美歌並楽譜」（15）（1882年・明治15年）の 65（ここでは木版による楽譜が付いています。編集者は、組合教会宣教師カーティスでした。）そして、この『新撰讃美歌』（69）の 169（ここではじめて活版で楽譜が印刷されています。平仮名が大分現在のものに近くなってきています。）を見て、比べて下さい。



- 1 われのかみにちかづかん
よしやうれいにしのびなん
われうたうべきわれのかみに
ちかづかましともならん
- 2 さまようまにわれらも
めさえくらみなおうたう
いわのまくらねむらんとき
かみとわれやあらんかも
- 3 われのほりててんにゆかん
かみよめぐめたすからん
かみのつかいわれをまねき
われのかみにともなわん

* * *



- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 わがみかみに
うれひなやみ
ほめうたひて
ちかづきなば 2 さまよふまに
めもくらめど
いはのまくら
かみとわれは 3 われのほりて
かみのみわざ
かみのつかひ
わがみかみに | <p>ちかづき
しのびなん
わがみかみに
ともならん</p> <p>われらは
なほうたふ
ねむらんときも
ともならん</p> <p>てんにゆかん
よくあらん
われをまねき
ともなわん</p> |
|---|---|

* * *



- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 わがみかみに
のほるみちは
ありともなど
わがみかみに 2 さすらふ間に
いしのうへに
ゆめのうちに
わがみかみに 3 主のつかひは
かけしはしの
まねきぬれば
わがみかみに 4 めさめてのち
たててかみの
いよせちに
わがみかみに | <p>ちかづかん
じふじかに
かなしむべき
ちかづかん</p> <p>日はくれ
ねむるも
てんをあふぎて
ちかづかん</p> <p>くもめに
うへより
いざのほりて
ちかづかん</p> <p>ペテルを
めぐみを
たたへつつぞ
ちかづかん</p> |
|---|--|

第四節は新しく付け加えられています。

もう一つよく用いらてきた讚美歌は、“Just as I am,without one plea”で、曲は HAMBURG、WOODWORTH、RETREAT が用いられています。これも奥野昌綱によって訳され、幾度も手が加えられています。同じように06-03, 15-69そして69-126を見てみましょう。

06-03

第三

わがつみをもてり
かみの小ひつじに

われもまちおらば
イエスウの血にぞ洗ふ

われらおほくまよふ
うれひはうちそと

われらのまつしき
イエスウみないやせば

イエスウわれをうけん
しんずればやすません

イエスウわれを愛して
まことにそむか

- | | | |
|---|--------------------------|-------------------------|
| 1 | われつみをもてり
かみの小ひつじに | イエスウ十字に死せし
われたのみてゆく |
| 2 | われもまちおらば
イエスウの血にぞ洗ふ | つみをあがなへば
われキリストにゆく |
| 3 | われらおほくまよふ
うれひはうちそと | しばしばぞうたがふ
われキリストにゆく |
| 4 | われらのまつしき
イエスウみないやせば | めしいとなやみも
われキリストにゆく |
| 5 | イエスウわれをうけん
しんずればやすません | きよくしてむかえん
われキリストにゆく |
| 6 | イエスウわれを愛して
まことにそむか | めぐめばうそつかへん
われキリストにゆく |

* * *

15-69

RETREAT. I. M.

われをばたのまじ
イエスわれをよべば

われはやすらはで
つみをあらはんため

われはまよひつつ
うれひおほければ

われらのやまひと
みなよくいやせば

イエスはわれをいれん
まかせてやすまんと

イエスわれを愛して
まことにそむか

- | | | |
|---|-------------------------|------------------------|
| 1 | われをばたのまじ
イエスわれをよべば | 十字架にのぼりし
われキリストにゆく |
| 2 | われはやすらはで
つみをあらはんため | イエスにのみすがり
われキリストにゆく |
| 3 | われはまよひつつ
うれひおほければ | しばしばぞうたがふ
われキリストにゆく |
| 4 | われらのやまひと
みなよくいやせば | めしひあしなへも
われキリストにゆく |
| 5 | イエスはわれをいれん
まかせてやすまんと | きよめてぞむかへん
われキリストにゆく |
| 6 | イエスわれを愛して
まことにそむか | めぐみてぞむかへん
われキリストにゆく |

ここでは、曲は RETREAT で歌われています。

* * *

126. HAMBURG. 1773. (F. 4)

わ れ を ば た の ま じ エ ス よ び た ま へ ば
 わ れ は た め ら は で 罪 を あ ら は ん た め
 わ れ は ま よ ひ つ つ こ ころ は み だ れ め
 わ れ ら は 目 く ら み 主 い や し た ま へ ば
 エ ス わ れ を む か へ 平 安 (や す き) を え ん た め に
 エ ス の あ い に よ り や ぶ れ た れ ば い ま

- | | | |
|---|---------------------------|----------------------|
| 1 | われをばたのまじ
エスよびたまへば | 十字架にのぼりし
我キリストにゆく |
| 2 | われはためらはで
罪をあらはんため | エスにこそすがれ
我キリストにゆく |
| 3 | われはまよひつつ
ころはみだれめ | おそれうたがひて
我キリストにゆく |
| 4 | われらは目くらみ
主いやしたまへば | あしもなへたれど
我キリストにゆく |
| 5 | エスわれをむかへ
平安(やすき)をえんために | 罪をきよめたまふ
我キリストにゆく |
| 6 | エスのあいにより
やぶれたればいま | へだてのまがきは
我キリストにゆく |

曲はHAMBURGで歌われています。この讃美歌は、他にもいろいろ訳されたようですが、この奥野の訳が主流になっています。

このように、讃美歌の歌詞が、奥野昌綱や松山高吉らによって、見事な日本語に変えられて、日本文化に大きな影響を与えるようになりました。曲の方も、いよいよ西洋音楽を受け入れ、これも見事に日本に定着することとなります。この楽譜作りには、オルチンの功績は大きいものでした。